

● “サーカスはリヤカーに乗って” 沖縄ツアー／辺野古・高江へ

2011年3月11日の東日本大震災に続く福島第一原発爆発事件で飛散した放射能の影響で、一時、休校を余儀なくされた当サーカス学校の、いわば学外活動として、2012年に旅公演を始めた。

2014年には、“サーカスはリヤカーに乗って”と題し、リヤカーに立てるノボリの一本に“足尾からオキナワへ”の文字を書き、原発も基地も国家による公害であるとのアピールを行う公演、抗議の旅とした。

実は公害災害の原点とも言われ、現在も終焉していない足尾銅山鉱毒事件の、その足尾銅山は、ぼくらのサーカス学校のあるところから県境を越えた10キロほどのところにある。足尾に足を運べば、鉱毒ガスによって禿山になった山々の緑化運動を多くの人々が続け、その成果がでていはいえ、まだ岩肌が露出している山々を見ることができる。“足尾からオキナワへ”のノボリは、この足尾の鉱毒公害にもう一度、目を向けてもらいたい。そこから原発、基地問題を考えてみたいとの、ぼくらの思いもこめたつもりである。

今回で3回目の旅は今年の3月5日から14日と短く、オキナワ、辺野古・高江に限ったのは、リヤカー



に乗せた車を運ぶためにはカーフェリーを使わざるをえないことや旅費の問題などがあった。

旅費に関しては、多くの方々からご支援、カンパをいただき、参加メンバーが最低限の自己負担で済ませることができたことをご報告させていただくとともに、深く御礼申しあげます。

今回の旅に参加した末廣祥久、高橋七奈両君の旅の感想を下記に掲載したので、ご一読を。(毎回参加している田中健太君の報告は、次号に)

←リヤカーにメッセージを書くこどもたち(高江にて)

● “サーカスはリヤカーに乗って” 沖縄ツアーに参加した卒業生より

<末廣祥久>

◆きっかけ

西田さんから今回のお誘いをいただいたときは、沖縄で起きている問題についてまったく知りませんでしたし、自分がどんな気持ちで向かってよいものなのかわかりませんでした。「現場を生で見る興味・関心があればよい」とのことので、今回、参加させてもらうことにしました。

◆1日目

飛行機で約3時間、那覇に到着。暑いイメージの沖縄でしたが、ちょうどよい気温で過ごしやすかったです。僕と相方の七奈は飛行機で、校長・西田さんと卒業生でありもうひとりのメンバーでもある田中健太君

は車と一緒にフェリーで現地に集合しました。フェリー組は、予定よりも3時間遅れ、さらに待ち合わせ場所を間違ってしまうというトラブルがあり、合流するのに時間がかかるというスタートでした。

夜は、今回のツアーでお世話になるカメラマンの大城さん、西田さんの奥さん、そしてもうひとりカメラマンの山城さんに沖縄料理をごちそうになり、美味しくいただきました。

◆2日目

午前7時ごろから準備を始めて大道芸を3回行いました。場所は「パレットくもじ」という商業施設の正面の広場でやらせてもらえることに。向かい側には国際通りがありました。3回とも当初予定していた通りのショー構成ではありませんでしたが、普段通りにできました。平日の割には観光客も多く、たくさんの方にみてもらうことができました。特に中国人の観光客の方が多かったです。

◆3日目

朝6時。辺野古新基地の座りこみをしているところに行きました。この日は、あいにくの雨にも関わらず、大勢の人がゲートの前で座り込みをしていました。ピリピリしているというか、張り詰めた雰囲気があり、「絶対に負けない」という気持ちが伝わってきました。本当に、ここでパフォーマンスをやらなくてはいけないのか。現地に着いて、不安が増しました。雨が降っていたため、止み次第すぐに始められるようにと準備をしました。道路を挟んだ座り込みの向かいのところでショースタート。ショー中は終始、手拍子や歓声をしてくださいました。無事に終わってよかったです。お昼にもう一回行って、今日のショーを終えました。待機している間、たくさんの差し入れをいただいたり、演説を聴いたりしていました。

みなさんの気持ちを知ったうえで、明日はもっとよいショーができるように、と感じました。

◆4日目

この日は雨が降ったり止んだりだったので、ショーというよりもグリーティングを行いました。県と国とが和解案を受け入れ、話し合いをすることになっているのだそうですが、日本政府が今までしてきたことを考えると決して油断はできないので、多くの人が沖縄の美しい海を守るために朝の5時から夕方まで座り込みを続けていました。とても衝撃的でした。

◆5日目

ヘリパッド問題が起きている高江でショーを行いました。ショーが終わった後、仮設テントで少し休憩。

今の日本人は、自分の生活が精一杯なのか、これから起こり得ることに対して無関心だ、少しでも関心を持ってほしいと現地の人が話していました。



◆6日目

老人ホームにてショーの後、お世話になった大城さんに別れを告げて、フェリーに乗りこみました。フェリーは初めてだったので楽しみにしていましたが、実際に乗ってみた感想としては、次からは飛行機がいいと思いました。大阪から車で群馬へ、無事に帰ってきました。

◆この旅を終えて

この旅に参加する前に、自分なりにインターネットで調べていたときに、ネット上では「反対する人は反日だ、中国人だ、朝鮮人だ」などと書かれていたのを多く目にしましたが、座り込みをしていた実際の人た

ちというのは、沖縄の海を守りたい現地の人と、本土の人たちでした。機会があればぜひみなさんにも、一度でいいので、みてもらいたい場所です。とても人間らしい生き方をされていて、ひとりひとりの気持ちが伝わってきました。実際に現場をみてきたおかげで、他人事では済まされない問題であり、今の沖縄の人々が危険にさらされて、今の自分の生活があるんだなと感じました。

このたびお世話になったみなさん、ご支援、ご協力くださったみなさん、ありがとうございます。この経験を今後活かしていきたいです。

←卒業生3名（末広祥久・高橋七奈・田中健太）によるパフォーマンス中の風景をカメラマンの大城弘明さんが撮影。

<高橋七奈>

私は浅い情報と知識しか持ち合わせていませんが、西田校長に声をかけていただいたので、このたび沖縄に向かいました。福島原発事故から、日本の社会のおかしさに気づき、不信感を持っていましたが、沖縄で現実をみて、今まで自分が沖縄の人々の犠牲のうえの社会に生きていて、いかに平和ボケをしてしまっていたのかを、やっと自覚しました。

まず、沖縄の人々は、太平洋戦争で日本兵に殺され、米兵に殺され、自決をしたり、飢えたりして県民の約4分の1の命が奪われたと知りました。「終戦」といわれたその後もずっと、基地建設による山、森、海の破壊、米兵による事件や事故に苦しめられ続けています。辺野古の基地の前では、沖縄の人々が雨の日も、寒い日も、暑い日も、まだ暗い朝の5時半に毎日集まっては声をあげ、基地の反対を訴え、ときには唄い、踊り、それを夕方まで続けています。毎日です。

もし何もしないでいたら、辺野古は、沖縄は、本土の政府の意向のままに、基地だらけになってしまいます。海は埋め立てられ、オスプレイの飛行訓練により日々事故の危険にさらされ続け、オスプレイ発着時の熱風により森は焼かれるのです。アメリカ兵の住宅地の上空には、飛行機はいっさい飛ばないのだそうです。

もし戦争が起こるものなら、また沖縄で地上戦が起こるのでしょうか。本土に帰る途中の船で出会ったあるおじさんは、「基地があるから、今まで日本は平和だったのだ」「日本の自衛隊だけで、ミサイルが飛んできたらどうする」と言っていました。それに、沖縄でであったある方は「原発と同じで、基地がないと働き口がなくなるんだから反対とは言えない」と言っていました。

それらはすべて、戦争が起こることを前提としているんじゃないか…。そして、なぜその犠牲になる人がいるのか…。何を犠牲にするのかを選ぶのではなくて、戦争はしない。人は、人を殺さないという選択を、なぜ、できないようになっているのでしょうか…。

沖縄の基地の前では、地元の人々のほかに東京、埼玉、岩手など各地から、なんとかしたくて来ている方々にたくさん出会いました。正直なところ、私なんか一体何ができるのか。そう思うものの、なんとかしなくてはならない。なんとかしなくては、と思いつつ行動している人々がもっと増えれば、大きな力になると信じ、いままで沖縄の人々の苦しみを知らずに生きてきてしまった分、自分にできることを考え、人に伝え、行動し続けなければならないと感じました。今年、もう一度、沖縄に向かおうと思います。

●沢入国際サーカス学校 ・ 16年度より新入生募集！（2016年9月中旬スタート）



2001年に設立し、9月に16年度を迎える当校からは、これまで50名を超える卒業生が旅立ちました。彼ら／彼女らの多くが、現在、パフォーマー、芸人、アーティストとして、ストリートやステージ、各種イベントなど様々な場所で活動、仕事をしています。国内だけでなく、海外を拠点に自らの芸で身を立たせている者もいます。在校生では昨年、モンゴルの国際的なサーカスフェスティバルに出演して賞を獲得した者などが出ています。

さて、どのようなサーカス芸を行うにしても、専門性に特化した練習はもちろんこと、その前段階として、基礎となるからだづくりは欠かせません。一見華やかに見える世界ですが、舞台上に上がって他人に自らの芸を見せることができるようになるには、ある程度長い期間の、地道な日々の鍛錬が不可欠です。そちらは、アクロ体操という競技の世界チャンピオンに複数回輝いた実績を持つナージャ先生を毎年呼び出して、指導してもらっています。

また、芸だけでできればよいというわけではなく、いわばそれぞれが個人として自立して生きていかなければならないので、自炊や家事に始まり、仕事を請け、ときには交渉しながらこなすという能力もなくてはなりません。当校ではそのような手ほどきは、授業としては行っておりませんし、就職先の斡旋なども行っておりませんが、学校に依頼のある仕事、イベントなどは紹介しています。卒業後の生徒たちが社会の中でたくましく生きているのを見ていると、山の中で仲間とともに自炊しながらひたすら練習に打ち込む日々を送ったり、学校公演として主に地元の学校やイベントに出演したりという実践を通して、ひとりで生活していく術も、自然と身につけていくように思います。

—そんな日本で唯一のサーカス学校で、学びませんか？—

入学の条件としましては、自炊して生活しなければなりませんので、中学を卒業していることが望ましいです。それ以外に運動歴やダンス歴、年齢、性別は問いません。まずは体験入学にお越しいただければと思います。みなさんのまわりでサーカスに興味がある・パフォーマーを志しているようなご知人、ご友人がいらっしゃいましたら、ぜひお声がけをお願いいたします。

詳しくは校長・西田にご連絡ください。Tel.090-3008-7738

■4年制。最初の2年で基礎となるからだづくりを行い、その後専門の芸の練習を中心に行います。

■学費 年間30万円 ※別途、傷害保険料が年間13,000円ほど必要です。入学金はありません。

■住居に関して 学校周辺の住宅・民家を借用し、自炊して生活します。

家賃は月に約1万円～1万5千円程度（光熱費別途）。

●ナージャ先生のワークショップ

毎年恒例、ナージャ先生のワークショップ。今年は下記のように開催いたします。

群馬県の山の中にある沢入国際サーカス学校の体育館で、朝から夕方までナー ज्या先生の指導のもと身体づくりを行ったり、興味のあるサーカス芸に挑戦したりして、練習に没頭して過ごします。

毎年10名前後のパフォーマーの方やパフォーマー志望の方、一般の方が参加しています。

◆期間；2016年7月11日（月）～16日（土） ※全日程参加できない方はお申込み時にお伝えください。

〔スケジュール〕

7月11日（月）集合・オリエンテーション

7月12日（火）～15日（金）9:30～16:30 練習（12:00～13:30 昼休み）

7月16日（土）解散

◆場所；練習場所 沢入国際サーカス学校 体育館

〒376-0301 群馬県みどり市東町沢入491 旧沢入小学校体育館

宿泊場所 サーカス資料館 〒376-0303 群馬県みどり市東町座間41-1

◆練習可能な演目；トランポリン、空中芸（ティシュー、リング）、ジャグリング、ローラーボーラー、ハンド・トゥ・ハンド、ジャーマンホイール、アクロバット、基礎の体づくり（柔軟・筋トレ・倒立・マット運動）など

◆参加費；全期間参加の場合 40,000 円（1日単位：8,000 円）（ワークショップ費・宿泊費・朝&晩の食事代・保険込。但し昼食は各自）

◆募集人数；約10名

◆連絡先；NPO 法人国際サーカス村協会<東京事務局> <http://www.circus-mura.net/>

TEL03-3403-0561（東京事務局 担当；大須賀） メールアドレス k-osuga@accircus.com

現地スタッフ；校長・西田敬一 TEL090-3008-7738 事務局長・関口渉 TEL090-9012-5500

●『ディズマードダンス』公演

2年に1度行われているシアターXのIDTF（インターナショナル・ダンス・シアターフェスティバル）は、今年12回目。その実行委員会制作の『ディズマードダンス』の台本を書き、構成・演出に、実行委員会のメンバーとともに、西田が参加させてもらっている。前回のシアターX企画での作品作りは、2010年に行った、“花田清輝的、きよてる演劇詩の舞台春祭り2010”で、サーカス学校の生徒7名に、女優の老岐照美、クラウンのふくろこうじ両氏に参加していただき、上演した『勝ってたまるか剣振丸』だ。

今回はダンス作品で、ダンス作品となると、2006年の第6回のIDTFで『へいせいの田楽<平家女護島>』以来となる。実行委員会で作本を書けと言われた時、思い浮かんだのは、あのイギリスの名を明かしていない社会風刺的グラフィックアーティスト・バンクシーが、期間限定でオープンした“ディズマードランド”だ。ディズニールランドを揶揄したというか、ディズニールランドだけではなく、そこには、難民の姿やダイアナ妃の事故現場なども、かなりどぎつい立体像を作っている。そこは、現代文明のひとコマや事件などが廃物・廃墟化したものとして表現されている遊園地であり、そこで働いている人々も暗く、投げやりな態度で接客をしていたという。



↑園内の様子。インターネットより。(Dismaland; ストリート・アーティストのバンクシーがプロデュースしたテーマパーク。2015年8月22日から9月27日までの期間限定で、英サマセット州のウェストン＝スーパー＝メアにて開催された)

このニュースに接した時、あ、やられちゃったというのが第一印象であった。同じような悪夢の遊園地を作りたいと思っていたわけではないが、作りかけ途中で、巨大ショッピングモールが難民収容所になるという、かなりデタラメな脚本を書き上げていたので(残念ながら上演の予定はなし)、バンクシーが“ディズマーランド”を開園したことにストレートな衝撃を受けていたのである。

そこへ、第12回目のIDTF実行委員会演出作品の台本を書かないかという話が出てきた。しかし今回のIDTFのテーマは“北斎とかぶこう”である。このテーマと、“ディズマーランド”的イメージをいかに関連付けることができるか、その見通しは立たないまま、ネットでディズマーランドをあれこれ検索したり、ディズマル(dismal)が憂鬱、メランコリーという意味であることなどをしり、ディズマダンスというイメージが浮かんだ。なぜか、シアターで行われるダンスは、良くも悪くも芸術的なものというニュアンスが強い。その芸術的なイメージに一石を投じるような作品ができないかと思ったのである。

現代社会のさまざまな問題と向きあえば、人にもよるだろうが、ディズマーな気分に取り込まれてしまうのではないかと。多くの人々の不安を無視し、軍拡に走る自衛隊、イスラム諸国から逃げ出さざるをえない難民の姿、ホームレスなどなど。日本が一步一步、軍事衝突、戦争ができる国へと変質していく姿を見てみると、さまざまなジャンルで描かれている第二次大戦での悲惨な体験が、明日の我が身として悪夢となって襲いかかってくる。あるいは、こうした破滅への道を進みながらも精神に異常をきたさないほど、自分の神経は愚鈍なのかとってしまう。

そんな思いから、かなりストレートにいくつかのシーンを台本として書いてみた。そして、今回参加することになった各ダンスグループ、個人が、それぞれ作品化できるシーンを選んでいただいた。

そして、悪夢であると同時に近未来に起こるであろう、オスプレイの墜落した姿を舞台上にセットしてもらったことにした。ダンボールで作ることで、軍備品としても不完全な姿を表現したいと考えた。北斎は当時のあらゆる画法を学び、ありとあらゆるものを描き、死ぬまで絵筆を離さず、しかも描いた作品に満足することはなかった。今回の『ディズマダンス』は、北斎のなんでも描こうとした精神を学び、現代の社会的問題にダイレクトに取り組んでみることにした。さて、それがうまく表現されたかどうか。(西田敬一)

■6月11日(土)・12日(日) 両日とも 14:30 開演 ■会場: シアターX (カイ) (両国・東京)

■入場料 千円(前売り割引はありません)

チケットは西田(Tel.090-3008-7738)に申し込んでいただければ助かります。

最新 サーカス公演情報

★木下大サーカス

●大阪花博公演 公演期間 2016年3月12日(土)～2016年6月13日(月)

●休演日；毎週木曜日 ●会場；大阪市鶴見区 花博鶴見緑地 特設会場

●電話；大阪花博公演事務局 TEL06-6915-3033

★ポップサーカス

●浜松公演 公演期間 2016年4月23日(土)～2016年6月26日(日)

●休演日；6/2,6/9,6/15,6/16,6/23

●会場；アリオ市原大テント(上総更級公園すぐ横) ●電話；千葉・市原公演事務局 TEL0436-37-2112

★野外民族博物館リトルワールド “ヨーロッパ・サーカス”

サーカス大国ハンガリーとウクライナ、リトルワールド初登場のポーランド、数々のサーカスファミリーを輩出しているブルガリアの計4カ国から10名のサーカスアーティストが来日。磨き抜かれた技、最先端をいく超技、さらには美を追求した技などヨーロッパの美味しいところだけを抽出したサーカスショーです。

この春は、香り高いヨーロピアン・ブレンドのサーカスをお楽しみください。

●公演期間 2016年3月12日(土)～2016年6月19日(日)

●公演時間 平日；11:30/14:00 土日祝；11:00/13:00/15:00 (各回40分)

●休演日；毎週火曜日 ●会場；野外ホール ●電話；リトルワールド TEL0568-62-5611

★ダイハツ シルク・ドゥ・ソレイユ「トータム」

過去と未来で繰り上げられる「人類の進化」をテーマに無限の可能性を描く壮大な物語。

●東京最終公演 2016年5月23日(月)～6月26日(日)

●会場；お台場ビッグトップ(ゆりかもめ「台場」駅より5分) ●詳細は <http://totem-jp.com/>

その他公演情報

★第4回「哲学のタベ」よりパフォーマンス『山の向こうに』 ジョアン・スワルトヴァゲール

「哲学のタベ」は、アートと哲学、運動、形態、思索との刺激的な対話を通し、哲学にアプローチする一夜です。第4回目となる今年は「フィクション」をテーマに、哲学や語り、リアリティと物語、

思考のシステムとフィクションの構造との関係性について考えを巡らせます。

『山の向こうに』は、サーカス・アーティストのジョアン・スワルトヴァゲールと、ジャンルの異なる複数の日本人パフォーマーたちとの出会いとコラボレーションによって生まれたパフォーマンス作品。

アレハンドロ・ホドロフスキーの世界観にインスピレーションを得て、各パフォーマーの個性が融合した唯一無二のサイトスペシフィック・パフォーマンスをお楽しみください。

☆沢入国際サーカス学校出身の谷口界、ハチロウが出演します！入場無料。

●2016年5月28日(土) 17時30分

●会場 アンスティチュ・フランセ東京(「飯田橋」駅) TEL03-5206-2500

★2016 THE 舶来寄席 OSAKA&TOKYO

吉本新喜劇×世界のパフォーマー特別公演。トップレベルパフォーマーの超一流なステージをお楽しみいただけるだけでなく、お馴染み吉本新喜劇もあるお得な2部構成でお送りするなんばグランド花月ならではのプログラムです。ウェブサイト <http://www.the-hakurai.com/>

●チケットに関するお問い合わせ(チケットよしもと予約問い合わせダイヤル) 0570-550-100

●大阪公演/なんばグランド花月

2016年5月11日(水)～6月5日(日)

●東京公演/東京グローブ座

2016年6月9日(木)～12日(日)

<p>平日 18 時開演/土日祝日 19 時開演 チケット料金；大人 4,700 円 5 歳以上中学生以下 3,100 円</p>	<p>平日 19 時開演 土日 13 時開演・17 時開演 チケット料金；大人 5,000 円 5 歳以上中学生以下 3,500 円</p>
<p>★2016 年 IDTF 実行委員会制作 ダンスシアター 『ディズマーダンス』</p>	
<p>第 12 回目となるシアター×国際舞台芸術祭 2016（2016 年 6 月 4 日～7 月 10 日）にて、西田が全体の作・演出をした舞台作品が上演されます。総勢 30 名以上のダンサーが踊ります。</p> <p>●2016 年 6 月 11 日（土）、12 日（日）14:30 ●チケット料金；1000 円 高校生以下 500 円 全席自由 ●ご予約・お問い合わせ；シアター× TEL03-5624-1181 ●会場；シアター×（カイ）（JR 総武線・都営大江戸線「両国」駅）</p>	
<p>★キラリ☆ふじみ 『サーカス・バザール』</p>	
<p>ひと夏ごとに盛り上がりを増す感動と興奮の 2 日間 ●2016 年 7 月 2 日（土）・3 日（日） 「地産地消」を合言葉に開催するバザール、そして、すっかりおなじみとなった「かぼちゃサーカス団」が、新しいメンバーとともに今年もやってきます！沢入国際サーカス学校生も多数出演！特に記載がないものは無料です。</p> <p>●会場・お問い合わせ 富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ TEL049-268-7788</p>	
<p>☆楽しくにぎやかに会場全体をパレード！ ムンドノーポぼこブヨ～ダン ●2 日（土）・3 日（日）ともに 10:00 スタート 人形の音楽隊やサーカス団が、バンドの生演奏と一緒にパレードしたり、くるくる回って芸を披露したり。 みんなも一緒にパレードしよう！</p>	<p>☆メインホールでのサーカスショー 『サーカステントを探して』 ●7 月 2 日（土）14:30/3 日（日）12:30 ●チケット料金 一般 1,000 円 中学生以下 500 円 ●出演者 “ジョングルール・ボン・ミュージシャン” 于濤・愛実・サクノキ・talatta latta 沢入国際サーカス学校メンバー 中世ヨーロッパの古楽器を駆使した「ジョングルール・ボン・ミュージシャン」の生演奏とともに、空中芸と中国雑技のサーカスアクロバットを交えたボーダーレスで旅情に満ちたステージを繰り広げます。</p>
<p>☆カスケード水上ステージショー ●出演者；ひいろ・バーバラ村田・Kenta 沢入国際サーカス学校メンバー 中庭の水面上に普段はないステージが出現し、その上でさまざまなパフォーマンスが繰り広げられます。</p>	<p>☆なりきりサーカスワークショップ/井上ヤスミチ ダンボールでお面や帽子、マントをつくったり、真っ白な床やたくさんの風船に絵を描いたり！自由参加。 ※汚れてもよい服装でお越しください。 ●2 日（土）・3 日（日）ともに 12:30 より終わりまで</p>
<p>☆ジャグリング・ワークショップ ●2 日（土）・3 日（日）ともに 11:30 より約 30 分 ●参加費 500 円 ●マルチホールにて プロのサーカス芸人が指導する小中学生を対象にしたワークショップです。</p>	